

遊べる森林(もり) ありますか？

現在遊べる森は貴重です。近隣では荒れ放題の山林が多く、なかなか中を歩ける森はありません。本校のごく近くに、子ども達が気持ちよく歩いたり遊んだりできる、とても広い森があるのはすごいことだと思います。



森で遊びました。

4月上旬、6年生が近くの里山林「ふれあいの森」で遊んできました。外を歩くには最適の気候となりました。

この里山の管理は、「森と緑を守る会」が行っています。平成21年3月に発足し、地元の斎藤さんという方が代表をされています。結成式の模様は、新聞にも紹介されました。その後も、「茨城県元気な森林づくり活動支援事業」の指定を受け、県森林湖沼環境税などを活用して里山整備を続けてきました。

説明を受けながら案内された森林は、コナラやクヌギなどの広葉樹林です。奥深くまで下刈りが行きとどき、樹木のネームプレートが掛かり、植栽も進んでいました。わき水が確認でき、花が植えられ、野鳥のさえずりが豊かでした。

森の中で遊ぶことに慣れていない子ども達でしたが、普通の授業から離れて、のびのびとした姿を見せていました。程なく、野生児と化していました。

ネイチャーゲームという遊びが、いろいろ開発されています。野山の中レベルの「いねむり山賊」を試してみました。きれいに下刈りされたところに木のチップが敷き詰められているので、近づく気配を消すことが難しく、



山賊から宝を取り返すのは至難の業でした。楽しい一時を過ごすことができました。



環境の標語を作りました。

子ども達にも、郷土を愛し、これからも大切にしていこうという心が育ってきていると思います。総合的な学習の時間で環境問題を取り上げ、身近な問題への働きかけを行いました。「ふれあいの森」の入り口付近の(200mほどの緩やかな坂道)ごみ拾いをして、きれいな環境への呼びかけをしました。看板立てには地域の方々のご協力を得ました。



これからも森は友達

森林を整備していく努力は、環境問題から要請されるまでもなく、尊いことであると感じています。「遊べる森がある」このような地域の自慢を自然に引き継いで行けるよう、子ども達の体験を豊かにしていきたいです。

最近も、齋藤さんにお話を聞く機会がありました。池が広く整備されていました。サギが立ち寄っては、生かした魚が啄まれてしまうと嘆いていました。また奥の方まで下草刈りが進んでいました。下草を刈った中にも「ネムノキ」が大事に支柱に支えられていました。「いねむし山賊」を行った場所の山栗が、今年たくさん実り始めたそうです。周辺道路も整備されました。奥の奥の方まで案内され、「ここで子ども達と焼き芋をやりたいねえ。」とのことでした。

